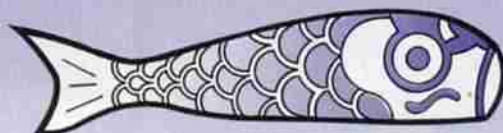
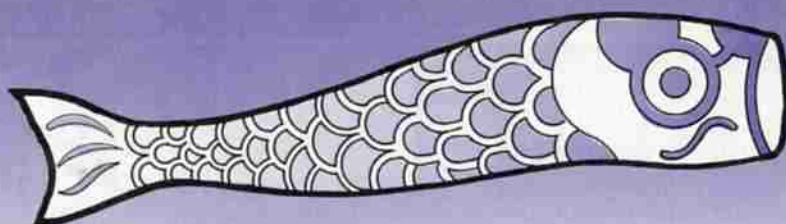


NOBORIBETSU



の 広報 ぼりべつ

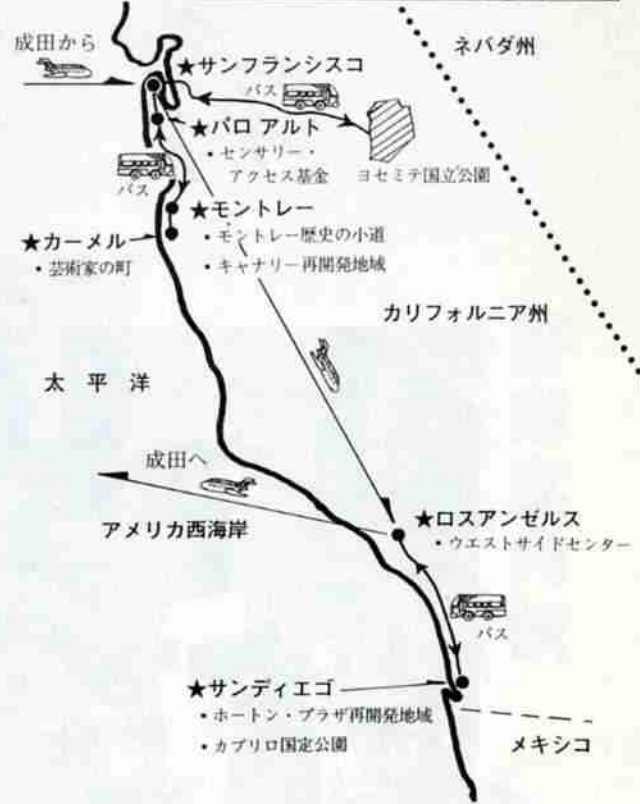
'94

5.1

No.523



▲サンフランシスコのゴールデンゲート



司会 今回の研修はアメリカのカリフォルニア州を訪れ、いろいろなものを見て参りましたが、どのような印象を持たれましたか。

「何もかもが大きい」 アメリカの印象

木村 広大な土地に様々な人種が同居していることに驚き、また、生活環境など見るもの聞くもの日本との違いを実感しました。

秋吉 あらゆるものを飲み込んでいくアメリカの大きさを知りました。また、モントレイとカーメルの街並みの美しさは印象深く、カリフォルニア州には数多くの自然が残っているのを見て来ました。

関 アメリカは大きく広く見るものが驚きの連続で、人生観が

市民海外派遣研修

市は、国際化時代に対応できる人材を育成し、登別市の新たなまちづくりに役立てるため、「いきいき人とまち基金」を活用して市民を海外に派遣する研修を行っています。4回目を迎えた市民海外派遣事業は、過去2回市民団体の推薦者、前回と今回は一般公募の方法により行いました。1月15日から7泊8日の行程で9名の方が各自テーマを持ち、アメリカ西海岸（カリフォルニア州）を訪問しました。帰国後は、そのテーマに基づく報告書を市に提出しています。

直接素肌で触れた異国の地はどのような印象だったのか、またどのようなところがまちづくりに生かせるのか、座談会を行いましたのでその内容を紹介します。（敬称略）

変わったような気がしました。

山田 バスの中や公共施設などは禁煙で、また、道路には捨てられた空き缶は目につきませんでした。公共の場は自分の領域と同じように大切に守るマナーが備わっていることを知りました。

永山 自然が沢山あるように見える演出の仕方、客に接する従業員の演出に日本との違いを感じました。

根本 人口の少ないカーメルの街が大変きれいで印象深かった。大きな街でも一人ひとりが自覚を持てば同じようにきれいな街にできると感じました。

今田 アメリカの多面性を見たように思います。身体障害者や精神障害者など弱者には親切ですが、一方では、一人前に働くかと思っただけに、一人前に働こうと思っただけに、徹底的に冷たい実力主義

義の国を感じました。

濱田 公共施設は障害者に対するケアが行き届き、都市の基盤整備もしっかりしている様子を見て来ました。司会 この度の研修では、二つの福祉施設を視察しましたが、日本との違いも含めて感想を述べてください。

「個人を尊重する福祉対策」

今田 センサリアーアクセス基金は、全盲の人が指で文字を読み取る訓練センターとして設立された施設で、コンピューターを使用した実地の職業訓練を行っていましたが、障害者を雇用する企業に対しても必要な人材を貸し付けたり、職員を対象とした講習会を行うなど進んだ福祉対策

に驚きました。また、障害を持つ人が何か一つでも可能性あれば、誰でも無料で訓練を受けられることは素晴らしいことだと思います。

永山 日本では国が押し付けるところがあるが、アメリカでは個人を大切にし、本人の意思を尊重した指導をするなど自由の違いを感じました。

秋吉 日本では行政が仕切り過ぎます。だから市民は頼り切ってしまう面があるので、自分のことは自分でやろうとする基本的な意識が欠如しているのではないのでしょうか。

司会 アメリカを代表するヨセミテ国立公園やカリフォルニア国立公園を視察しました。アメリカは、自然を大切にしているという印象がありますが、日本との違いをどのように感じましたか。

「自然景観を生かした
最低限の施設」

関 登別は造られた観光地のイメージが強く、一方アメリカは手を加えてはいるが違和感を与えないような配慮をしていました。また、公園がどのようにしてできたか、詳しく資料を展示していたことに驚きました。

秋吉 公園に関する多くの書物が販売されていたのが印象的で、絵葉書や地図、簡単な文献も店頭に並べてありました。私達もヨセミテ公園で

書物（？）買って来ましたが、日本でも置いておくと思われ感じました。木村 登別にも学術的な文献があるので、分散している資料を集めればかなりの書物が作れるのではないかと思います。

濱田 自然に対する観点や姿勢が日本とは全く違っていました。地獄谷を例に上げてみましたが、至る所に注意書きの看板が立ち並び、トラブルが起きるとすぐ防護柵を設置してしまう。川にしても危険だから入ってはいけないと言ったり、事故が発生するとすぐに管理者に訴えるなど、日本人は自然に触れるマナーを知らないのではないかと思います。

自然の美しさには同時に自然の厳しさもあるのに日本人は意識が全く違っているように感じます。

関 国立公園内でロッククライミングをしている人を見かけ驚きました。日本では危ないと言って許可されないと思うんです。

秋吉 最低限の安全管理はしなければならぬと思いますが、一方で子供たちに自然と触れ合えと言いつつ他方で柵をする矛盾を感じます。ヨセミテ公園に行く途中の道路にガイドレールがなかったのですが、これは自然の景観に配慮したもので、スピードを出して事故に遇うのは自己の責任としているのではないかと感じました。

司会 広大なア（？）カは砂漠も多いことから、潤いのある自然への愛着や自然を大切にしようとする思想が生まれ、自然を自分達の生活に取り入れて楽しむことが上手ですが、自然環境を生かしたまちづくりについてどのように考えますか。

「自然をそのままにした環境」

木村 国土の違いもあるが荒地地を開発するには膨大なお金がかかることから、アメリカは自然をそのままの状態にしておくことが経済的見地から一番ベターだと判断したのではないのでしょうか。以前の日本はこのような議論はなく、開発も少なく自然が残されていた。しかし、高度経済成長に伴い、本来の自然のままの状態からだんだん逸脱して、模索しながら物を作り手を加えて来たのが実情ではないかと思えます。国土が狭い我が国において、経済性を優先した開発が自然破壊につながったのではないかと考えます。

秋吉 街づくりをするために何かを我慢することにより、外部から客を呼び込めると思えます。私達が訪れたカメラやモントレーは緑も多くとてもいい街と感じました。しかし、経済効果を考えると住んでいる人も自分の街を大きくしたいとか建物を高くしたいという気持ちもあると思

日程表

日	15	16	17	18	19	20	21	22	
出発	サンフランシスコ	観光リゾート調査 (ヨセミテ国立公園視察)	モントレー・カメル	地域活性化調査 (モントレー・カメル市内視察)	バロ・アルト 福祉調査	ロサンゼルス (センサリーアクセス基金訪問)	福祉調査 (ウエストサイドセンター訪問)	サンディエゴ 地域活性化調査 (ホートン・ブラザ地区)	観光リゾート調査 (カリフォルニア国立公園)



▲座談会の風景



山田多喜治さん
登別本町



秋吉正智さん
登別温泉町



今田ヒサ子さん
片岡町



木村 奨さん
若草町



関 美枝子さん
若草町



永山 雅一さん
登別東町

います。その気持ちがある部分で押さえて緑地を多くするという我慢をしているのではないかと思います。勿論、ヨセミテのような公園は整備をしたくても広大な敷地だから、できない。倒れた木はそのままにしてあるのが実情ではないでしょうか。

日本は国土全体からいうと整備はかなり進んでいます。残念なことにはまちの中は緑が少ない。登別温泉も周辺は緑が多いけれど街の中は緑地が無く、とても殺伐としています。

建物の面積が減っても、20年後、25年後を目指して緑地を増やしていかなければ、旅館や商店が持っているソフととかハードという問題の以前に、登別温泉は自然の中に新しく造られた地域に負けてしまうと思います。

木村 私と同じような意見ですが、日本人は経済的に豊かなのに対し、アメリカ人は精神的に豊かと多くの人が言っているが、正にその通りと思います。登別には緑が少なく公園も貧弱です。これからのまちづくりは、緑地とマッチした都市基盤や環境を充実していくことが必要なのではないかと思えます。

秋吉 東京には緑がないと言われるが、整備された公園が沢山あります。札幌も駅前通りや大通りにも整備されたものや緑がたくさんあります。本来なら田舎にあるべきものが田舎にないのです。
山田 これは、日本人一人ひとりの



▲サンディエゴの再開発地区「ホートンプラザ」

自然に対する愛着の無さそのものではないかと思えます。天気の良い日曜日に富浦トンネルから虎杖浜まで散歩した時、道路や防波堤周辺はごみが散乱していました。これは明らかに釣り人がもたらしたものです。

自然と共存するための教育の必要性を強く感じました。また、カーメルの街に一歩足を踏み入れたとき、街全体が木々に囲まれ、建物は平屋造りが多く電線や信号機、大型看板やネオンサインが無いことに驚きました。

た。これは自然という先住民族に不快感を与えないというカーメルの人々の優しい思いやりではないでしょうか。

濱田 これからは企業が経済を優先するのではなく、地域社会に貢献する時代になってきています。この地域を自分のために社会のために何が貢献できるか視点をかえて見ることが必^要かと思えます。

永山 まちづくりを進めるうえで、自分は何ができるかということを考える必要があります。行政ばかりに頼るのではなく、緑が少ないと思うなら自分の庭に木を植えることから始めるという意識を持つことで、認識も変わっていくのではないのでしょうか。カーメルの街がきれいなのは、「ここは自分の街だ」という自覚を持つた人達が住んでいるからだと思えます。

木村 私達は、後世の子供達に何を残すか考えなければならぬと思います。住み良い街をつくるには、緑や公園を含め形に残る物を構築することが必要で、そのため自分は何をすべきか、市民一人ひとりが自覚めることが大切です。このことが自分の街に愛着を感じ、物を大切にすることが育つのではないのでしょうか。

司会 サンディエゴのホートンプラザなど再開発地^を視察しましたが、地域の活性化についての感想をはいかがでしょうか。

「空間を利用した光や音の演出」

木村 ホートンプラザはかなり事業費をかけ建設されました。人口も環境も違うので一概に日本に置き換えて話すことはできませんが、施設が素晴らしいことに加え、空間を光や音で演出したり、植物をさりげなく配置するなど客を引き付けるには十分な魅力を感じました。

関 先日サッポロファクトリーに行つて、ホートンプラザに大変似ていたので驚きました。北海道でもやればできるんだと感心しました。ホートンプラザは買い物ばかりが目的でなく、散歩がてらに集まり体をリラックスし心を休める憩いの場となっていました。登別にも小規模でも

平成5年度 登別市民海外派遣研修帰国報告座談会



濱田 一夫さん
登別町



根本 恵子さん
登別町

このような施設があつたら良いと思
いました。

永山 ホートンプラザには大勢の観
光客が訪れていましたが、一般の買
い物客はあまりいなかったように見
えました。幌別の再開発地区に札幌
のデパートやホートンプラザを持っ
て来ても、登別の市民に馴染めるか
どうかは疑問に思います。

秋吉 私は、地域以外の人が集まっ
て来れるような魅力ある施設を建設
することが、地元市民の意識を変化
させるのではないかと思います。

司会 市は、平成4年度から中学生
を海外に派遣していますが、この度
の研修でどのような所が適地と思
いますか。

「アメリカやアジア諸国など」

根本 まず、アメリカの良い所、悪
い所すべてを見せてあげたいと思
います。また、その国の人々の優しさ
や心を感じる意味でホームステイを
勧めます。滞在拠点は、治安や見所
等も考慮しアメリカがびっしり詰ま
っているサンフランシスコが良いと
思います。近郊にはヨセミテ国立公
園や歴史的にも貴重なカーメルやモ
ントレーの街があります。ホームレ
スの実態を見ることも必要と思いま
す。

秋吉 アメリカは広大な土地で歴史
司会 登別で歴史を残しているのに
あるのではないかと思います。



▲ヨセミテ国立公園

的要素も少ないのでテーマを設ける
ことが必要であるが、アメリカを理
解するには中学生には若過ぎるの
ではないかと思う。東南アジアの方
近く民族的にも似ているので、今後、
アジア諸国に派遣することも良いの
ではないかと思えます。

「今後の登別のまちづくりについて」

司会 最後にこの研修を通して感じ
た今後の登別のまちづくりについて
ご意見をいただきたいと思えます。

秋吉 私達は今、歴史の一ページを
作るところにいますが、まちづくり
を考えると20年後30年後の事を考
えて景観や登別らしさを守る役割が
あるのではないかと思います。



▲センサリー・アクセス基金(福祉施設)での研修

桜並木があります。登別温泉の先人
が100年前に植えたのは立派なこ
とで、このようなことが他にもでき
ないか学ぶことが必要なのではし
ょうね。

木村 先人は何かを残してくれた。
我々もその思いを継続させ、ここで
何かを残さなければならぬと思
います。

秋吉 例えば、外国では個人の木を
切つてはだめだとか、建物の内部の
改装はいいが外観をいじつてはいけ
ないなどの法律があります。日本で
も本州の温泉場などで瓦葺きの屋根
などを見ると何かしらいいと感じま
す。近代的なホテルがいいと思わな
いところに何かくすぐられるものが
あります。

根本 しかし、我々が昔のような所
にたまあに行ってみるのはいいけれ
ど、そこに暮らしている人は実際に

大変なのではないでしょうか。

濱田 建物や食文化など様々なもの
は、時代の流れで少しずつ変化しな
がら今日に残っています。まちづく
りも同じように変化はするけれど、
子供達に何を残すべきか知恵を出し
考えて行く方がいいまちをつくる
ことになるのではないかと思います。

秋吉 行政の予算に限りがあるので、
後世に残したいものが10あるなら、
その内2つは必ず残すものとして議
論を交わすことが必要ではないでし
ょうか。登別の地域が離れているの
で、皆の意見を取り入れてまちづく
りを進めた場合、結局何一つ残すこ
とができないのではないかと。先人は
当時観光資源を作ろうとして桜を植
えた訳ではないことを学ぶべきでは
ないでしょうか。

木村 あれもこれもやって欲しいと
権利ばかり主張しているが、木を大
事にしようとか、緑を多くしような
どの最小限度の約束事を作っておけ
ば、それから枝葉がついて先々にな
って花が実り住み良い街になるので
はないでしょうか。

司会 まちづくりは、まず市民一人
ひとりの意識を高め、先人に学び後
世に何を残すか皆で議論を交わすこ
とが大切だと言うことですね。

本日、お忙しいところご出席いた
だきありがとうございます。

(発言内容は、要旨としています)



西 走

第2土曜日は郷土資料館に集まれ

こいのぼりの切り絵(4月9日 郷土資料館)



学校週5日制への対応事業として郷土資料館では、毎月第2土曜日に子供たちが楽しく学べる事業を季節に合わせて企画し、開催しています。この日は、「こいのぼりの切り絵」が行われ、親子合わせて10人が参加。子供たちは、慣れないカッターナイフを手に、根気よく頑張り、大空を元気よく泳ぐ吹き流しやこいのぼりの出来栄えにうれしそう。今月第2週の土曜日14日は、小鳥の巣箱づくりを行います。また、緑色の桜「御衣黄」が咲き始める今月中旬からは、俳句展も行います。

夏を先取り!

初心者少年水泳教室(4月12日 市民プール)

4月1日オープンした千歳町の市民プールで初心者少年水泳教室が開かれました。初心者の小学生男女(3年生から6年生)を対象に40名募集のところ33名が申し込み。

初日は、市水泳協会の女性指導員より水泳を始める前から泳ぎ終わって帰るまでの注意事項を受け、準備体操を行って室温37度、水温28度プールへ。「まず顔を洗って」、「さあ、次は胸まで入って」と、次々に指導が行われ、真夏を先取りしたちびっ子たちは元気いっぱい。

22日まで8回の教室で、ちびっ子たちはカナヅチ返上です。



盛況「しんた21」体力測定会

しんた21のトレーニングルームで行われている体力測定会に、多くの方が参加しています。

トレーニングルームは、成人病予防や健康を維持するための体力づくりを行うために設けたもので、体力測定会は体力づくりの前に健康状態や体力をコンピュータで診断し、



その人にあつた無理のないトレーニングメニューをつくるために行われています。

3月に行われた無料測定会には、4日間の期間中に約200人が参加。4月の測定会もほぼ満員の状態が続き大盛況でした。

トレーニングを指導している保健福祉課の本田さんは、「体力測定を終えて登録している人は、16歳から78歳までさまざま、すでに300人を越えています。ほとんどの人が、診断表のさんざんな結果を見て、「健康づくりに意欲を燃やしていますよ」と大忙しの中、皆さんの健康づくりへの関心の高さに、うれしい悲鳴をあげていました。

体力測定会は、5月以降も行っていきます。日程など詳しいことは、保健福祉課(☎0110)に問い合わせください。

楽しい劇をありがとう

若草子ども会恵寿園を訪問

(4月1日市立養護老人ホーム・恵寿園)

若草町内会の「若草子ども会演劇サークル・子ぐま座」の子供たちが、自慢の劇を恵寿園で披露しました。子ぐま座は、演劇の楽しみを通して、学年の縦のつながりを深めようと、

月1回の練習の成果を昨年12月のクリスマス会で初披露し、「春休み中にも」と、恵寿園を訪れました。劇の台本の製作や衣装、音響など





入学おめでとう、車に気をつけてね

新入学児と父母への交通安全啓発
(4月7日 幌別小学校)



平成6年度の入学式を迎えた、幌別小学校正面玄関で、市、胆振支庁、室蘭警察署、市交通安全協会、登別中央・登別ライオンズクラブ・登別ロータリークラブの関係者約100人による「新入学児と父母への交通安全啓発」が行われました。

春の雪が降るあいにくの天気となったこの日、父母らに手を引かれた新1年生は、関係者から「入学おめでとう。車に気をつけてね」と呼びかけられ、元氣いっぱい「ハイイ」。学用品や交通安全用品が入った封筒を手渡され、「ありがとう」と、にっこりこたえていました。

文化のかがおり高いまちを

登別市文化協会対話集会
(3月30日 市民会館)

「登別市の文化をどう高めるか」をテーマに、登別市文化協会の第2回対話集会が行われました。昨年度の反省と今年度の活動について活発な討議が行われ、集会には、文化協会に加盟する36団体約120人が出席しました。集会では小林碧水同協会常任理事が、組織形態や後継者の加入育成などについて6つの基調提案を行いました。これを受けて邦楽や文芸、伝承など7部門のグループに別れ討議が行われ、団体相互の連携を深めることや後継者の育成を図ること、文化祭へ多くの市民参加を呼びかけるなどの意見が出されました。



拠点に行っています。この日上演した劇は、低学年生が「おへそよ消えろ」、高学年生が「おばけ太郎」で、お年寄りたちは孫のような子供達の熱演に拍手を送っていました。公演後は、子ども会が持参した手作りのどらやきを一緒に食べて楽しいひとときを過ごし、「お札に」とお年寄りからは手作りの箱をプレゼントされました。

登別のまちづくりを提言

いきいき人とまち推進会議全体会議(3月30日 しんた21)

発足して5年目を迎えた市民まちづくり組織「いきいき人とまち推進会議」の全体会議が開かれました。6部会が5年間にわたり調査、研究してきた福祉、自然、国際交流、「まち」は、皆さん自らが考え、つくりあげていくものです。この提言書には、皆さんのまちづくりへの熱意が込められ、登別の未来像が描かれていると思います。新しい総合計画には、この熱意を反映していきたい」とあいさつしました。

この後、会議はこれまでの成果を生かすため「いきいき人とまち推進会議」を再構築していくことを決め、まちづくりへの意欲を新たにしております。

「こんなまちにしたい提言書」は、図書館、市役所市民ホールに置いてあります。詳しくは、企画調整室(☎1122)に問い合わせください。



健やかに生き生きと暮らすことができる地域社会をめざして

—登別市高齢者保健福祉計画—

市は、急速に進む高齢化社会に対応するため、高齢者ニーズ調査をもとに、登別市老人保健福祉計画検討会議や福祉懇談会からの意見を参考として「登別市高齢者保健福祉計画」を策定しました。

この計画は、高齢者の方々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、在宅保健福祉サービスの向上を主眼に、福祉と保健、医療の連携を図り、サービス提供の目標量を定め、目標達成のための施設整備や推進体制整備の基本的な方針を示すものです。

今号では、この計画の概要についてお知らせします。

【高齢者の現状と将来の比較】

区 分		現状(平成4年4月)	将来(平成11年)
総人口		56,992人	57,036人
65歳以上人口 (高齢化率)		7,797人 (13.7%)	10,464人 (18.3%)
寝たきり	総数 A (出現率)	521人 (6.7%)	738人 (7.1%)
	在宅	47人(9.0%)	164人(22.2%)
	特別養護老人ホーム	69人(13.3%)	115人(15.6%)
	老人保健施設	12人(2.3%)	136人(18.4%)
6か月以上入院		393人(75.4%)	323人(43.8%)
痴呆性	総数 (出現率)	374人 (4.8%)	503人 (4.8%)
	うち在宅で介護が必要 B	56人	75人
虚弱	総数 C (出現率)	400人 (5.1%)	547人 (5.2%)
	在宅	239人(59.8%)	321人(58.7%)
	養護老人ホーム	45人(11.2%)	62人(11.3%)
	6か月未満入院	116人(29.0%)	164人(30.0%)
要介護老人計(A+B+C)		977人	1,360人

注 ①「高齢化率」は総人口に占める65歳以上人口の割合。「出現率」は65歳以上人口に占める寝たきりなどの高齢者数の割合。
②「寝たきり」と「虚弱」の高齢者数は高齢者ニーズ調査などをもとに推計。
③「痴呆性」の高齢者数は国の出現率をもとに推計。

① 策定の趣旨

日本は、21世紀には4人に1人が65歳以上の高齢者になると予測されています。

登別市においても、総人口に占める65歳以上の割合は、平成4年4月の13・7割が平成11年には18・3割まで高まるものと予測しており、今後は、寝たきりや痴呆性などの介護を必要とする高齢者の増加が見込まれます。

このため、市は在宅福祉や施設福祉、保健サービスの現状と「高齢者ニーズ調査」や「福祉懇談会」など

により把握したニーズを検討し、平成3年に策定した「登別市高齢化対策指針」を踏まえながら、将来における保健・福祉サービスの具体的な目標量を明らかにし、目標達成のための施設整備や推進体制整備の基本的な方針を示す「登別市高齢者保健福祉計画」を策定しました。

② 目標年度

国の「高齢者保健福祉推進十か年戦略」や「保健事業第3次計画」の目標年度と同じ平成11年度です。

今後の社会経済情勢等の変化や事業の進捗状況を踏まえ、中間年次前後での見直しを含めて適宜現実の推移に見合った調整を行います。

③ 計画の実現にあたって

計画の目標達成は、市だけの財政負担では無理なことから、国や道の十分な財政的支援を受けながら、民間企業のもつ技術、資金力、柔軟性などを活用し、高福祉を得るための受益者負担の在り方についても検討を加え計画の実現に努めます。

④ 主な取り組み

○ ホームヘルプサービス・デイサービス・ショートステイなど在宅保健福祉サービスの充実

○ 寝たきり老人ゼロ運動・痴呆性老人対策の推進

○ 保健福祉サービスの従事者確保

○ サービス利用を容易にするための相談窓口・広報などの充実

○ ボランティアの拡充や社会福祉協議会の活動基盤強化など保健福祉の環境整備の推進

○ 老人クラブ活動の支援・シルバー人材センターの充実など高齢者の生きがい対策の推進

○ 福祉教育の推進・地域福祉活動の充実など高齢者とともに生きる社会づくり

※ニーズに必要なもの。

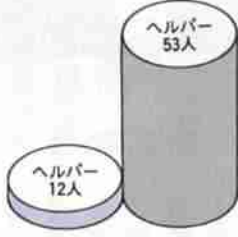


主なサービスの目標量



ホームヘルプサービス

ホームヘルパーを派遣して介護・家事援助サービスを提供します。



デイサービス

通所により日常生活動作訓練や入浴・食事などのサービスを提供します。



ショートステイ

家族の入院・出張などにより、自宅で介護が困難な場合に、特別養護老人ホームなどで一時的にサービスを提供します。



在宅介護支援センター

24時間体制で介護などに関する相談に応じ、各種サービスを受けられるように関係機関との調整を行います。



特別養護老人ホーム

自宅で介護を受けることが困難な高齢者が生活する施設です。



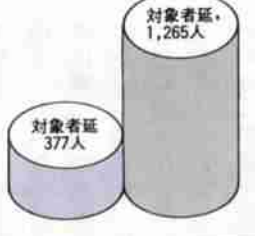
ケアハウス

居住性に優れ、外部のホームヘルプサービスなどの在宅福祉サービスを利用できる施設です。



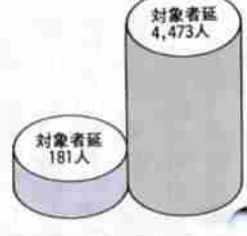
訪問指導

保健婦などが家庭を訪問し、療養や介護方法について指導します。



機能訓練

心身の機能維持と日常生活の自立を助けるために訓練を行います。



平成5年度末 平成11年度末

平成5年度末 平成11年度末

平成5年度末 平成11年度末

平成4年度 平成11年度

平成4年度 平成11年度

▽問い合わせ
社会福祉課
保健福祉課(しんた21内)

☎ 85 0100
☎ 85 1911

健康診査

成人病の早期発見、早期治療を目的に血液検査・尿検査などの基本健康診査と各種がん検診を行います。



平成4年度 平成11年度

健康相談

心身の健康に関する個別の相談に応じ、必要な指導や助言を行います。



平成4年度 平成11年度

老人訪問看護

かかりつけの医師などの指示に基づいて、看護婦が家庭を訪問し、看護サービスを提供します。



平成4年度 平成11年度

老人保健施設

病院と家庭の中間施設で、リハビリ、看護・介護などのサービスを提供し、自立と家庭復帰を支援する施設です。



平成5年度末 平成11年度末



郷土史点描

登別郷土文化研究会 宮武紳一

48

幌別町を訪ねて

………その4

「愛隣学校」の設立

明治をむかえ、北の都札幌の建設が進められた中で、陸の大動脈「札幌本道」が開通し幌別はその宿泊地として発展しました。ワーフィールドらの調査に基づき、開拓使顧問ケブロンンの進言で開設された「札幌本道」は、日本で最初の「洋式車馬道」だったので。

草木を刈り取り道幅も狭く、曲がりくねった駄馬の道路に比べ、新道は道幅も広く玉砂利を敷き、車馬輸送の道ですから4頭だての幌馬車で走っている姿を想像してください。速いものです。

現実には、室蘭と札幌間は荷馬車で2日間をみていたようです。当時の新室蘭港(室蘭駅北西)から鶯別への道は、室蘭の御崎町、輪西町を通る崖下が海岸なので道路はなく、室蘭御前水から山中に入り輪西のみゆき町高台(観光道路)からイタンキ海岸路を通りました。午前中に新室蘭港に上陸しても、曲折の多い現在の観光道路を歩いたり、小船で

輪西に上陸しても、幌別までが時間的に限度なので宿泊業が幌別で発展した訳です。

宿泊所は、東海林栄蔵・美恵の夫婦、後に鈴木留吉・久本幸吉・佐藤清左衛門・石川福松それに金成喜蔵らが経営しております。

商業も小杉万五郎・西東勇吾・千葉儀助・紺野久治・志家芝九郎・鈴木留吉・金成喜蔵・中山弥重などが活躍し、中山商店は、伊達家家老の田村顕允にカーヘル(ストープ)と煙筒を入手販売するなど先進的な取引をしていました。

特筆すべきことは、旅館業を営んでいた金成喜蔵の所に二人の外国人が宿泊していることです。

アイヌの父として尊敬された英国人ジョン・パチエラーと、パチエラーの大先輩で東京帝国大学教授チェンバレンの来訪です。チェンバレンも3週間金成家に滞在したのでエピソードもあり、これについては後述することになります。

ジ・パチエラーは、明治19年

(1886)から26年札幌に転居する

まで幌別に居住、現在の青葉町吉鷹敬次郎氏の牧場脇に家を建て妻のルイザ夫人らと住んでいたし、札幌転居後も幾度か訪れています。建物の情景を書き残した宮武フデによると

「おとぎばなしにでるような家が、緑の森の中に一軒建っていて、ホルスタインの白黒の牛がのんびりと草を食べていた。英国人の神学博士バチラさんという方が伝導と信仰の生活をしていたらよかったのです」と、馬に乗っての布教活動やルイザ夫人のケーキづくり、珍しかった牛乳のことも記されており。

特に、パチエラーと登別で関係深いのは「愛隣学校」の建設です。

公立の学校として室蘭常盤学校が明治9年、幌別小学校が明治14年開校していますが、明治21年9月10日開校の「愛隣学校」は、私立では道内でも屈指の古い学校として幌別町5丁目、本町東通りに面しパチエラーにより開設された。校主は金

成喜蔵の長男である金成太郎です。金成太郎については、道内で最も古い函館新聞の明治14年(1881)4月20日号に大体次のような記載があります。

「昔から軽視されたアイヌ人も開化文運の美徳に潤いすぐれた人物が現れた。これは、胆振国幌別郡に在る常盤学校生徒の金成太郎で今年14歳。幼齡に似ず学業に熟しているのと同校でも太郎を教員にしたら良い、と協議していた」ということが、論評され、札幌農学校北大の前身へ入学した友人齋藤次郎宛ての手紙もわざわざ記載されるほどの俊才でありました。

金成太郎については、後述することになりますが、はじめパチエラーの設置した相愛学校の校主であったのが、突然変更され校名も変わっています。明治21年4月20日の開校届の校主は「金成太郎」。校名は「私立相愛小学校」。同年8月「校主変更の伺い書」が出され、9月8日の校主変更届で「私立相愛学校」が「愛隣学校」となり、「校主金成太郎」の名が消えています。

明治21年9月16日の「函館新聞・幌別通信」によると「私立愛隣小学校はいよいよ本月10日開校式を行った。参会者230余名、開村以来盛大な儀式でパチエラー氏は、アイヌ語で答辞をし参会者の祝文も多数あり」と開校式の盛況ぶりを紹介しています。

友達の輪

今回は、前回登場の中田さんよりご紹介いただいた谷口さんを訪ねました。



谷口 国夫さん (46歳)

若草町在住

谷口さんは、若草町で自転車店を営んでおり、この3月10日お店を新装オープンさせたばかりでした。

その店は、今、ショッピングロードとして躍進を続けている若草中央通りの街並みにマッチした外観で、店内は出入口が2か所、むき出しの天井から数10台のカラフルな自転車がぶら下がり、カラー蛍光照明に軽快なBGM、およそ自転車屋さんらしくないすてきな店でした。

「12年前脱サラでこの商売を始めたのですが、こういう店にするのが夢だったんです。ようやく実現しました」と第一声うれしそうに語ってくれました。

何う前、買い物カゴの付いた自転車(シティサイクルと言いたい)しか頭になかったのが、店内のマウンテンバイクが非常に新鮮に感じ、いろいろと聞いてみました。「マウンテンバイクは5年位前から

出始め、2、3年から急激に増えてきてます。それも健康ブームのせいか、40、50代の方が多いですね。なぜそんなに人気があるんですか?」

「普通のサイクリング車だと舗装道路だけしか乗れませんが、この自転車はどんな所でも乗って行くことができます。舗装道路ではもちろん、山道、砂利道、海辺と気楽に散歩ができるんです」。

値段も普通のものだとサイクリング車と変わらず、5、6万円で買えるとのことでした。

ところで、昨年から今春にかけてこの中央通りに大型店が2件もできましたが、影響はどうですか?」

「お客様の流れが変わったと言うか、目に見えてお客様は増えていきます。特に室蘭、伊達の方が目立ちますね。白老地区から伊達にかけてはあまり自転車専門店が無いんです。幸いこの若草地区には私の店も含めて3店

舗もありますので、このお客様の流れを利用して、なんとか「自転車の街若草町」とのイメージを定着させたいですね。夢ですけど」。

なんともさわやかな夢でぜひ実現してほしいと思います。

夏場は休日なしの忙しい毎日。朝から晩まで自転車の事しか頭にないという谷口さんですが、一つだけいつも思いを抱えていることがあるとのこと、それは登別市内にサイクリングロードを造ってほしいということでした。登別市民がサイクリングをする時は苦小牧、あるいは洞爺湖まで出掛けなければならぬのが現状だそうです。川上公園から鉱山町へのコースはどうかと、具体的に場所まで示して熱く語ってくれました。

〈市民リポーター 白沢賢一〉

次回は、紙面構成を変えて若草町にお住まいの田中茂子さんが登場します。

となりまち ほっとライン

室蘭市



春風切って、さあ、高原の公園に
宿泊施設もオープン

室蘭岳の山すそに、広大な山麓公園が完成。登山はもちろん、キャンプ・テニス・グランドゴルフ・ゲートボール・パターゴルフなどができ、運動広場やクレイ広場、野外ステージもあって、一日中楽しめます。待望の宿泊研修施設と体育館もオープンしさらに充実。さあ、春風を切って、高原に出かけてみませんか。

宿泊研修施設(大・中・小の会議室あり)

▷収容人員 80人

▷宿泊料金 大人1,900円、高校生900円
小・中学生400円(素泊まり)

▷問い合わせ 室蘭岳山麓総合公園宿泊研修施設(☎446055)

伊達市



新緑の有珠山で
森林浴ウォーキング

有珠山山開き実行委員会は、山開き安全祈願祭を兼ねた「第4回有珠山さわやかウォークフェス」を開きます。

すがすがしい新緑の季節、森林浴をしながらさわやかな汗をかいてみませんか。

▷日時 5月29日(日)午前9時30分集合
準備体操のあと登山開始

▷集合場所 旧有珠登山バス会社前(道南バス有珠駅前下車徒歩10分。無料駐車場もあります)

▷内容 集合場所を出発し、登山道が遊歩道のコースを選んで登山。山頂では安全祈願祭を行うほか、記念植樹や豚汁のサービス、武者太鼓の演奏などを行います

▷問い合わせ 伊達市商工観光課(☎0142-3331)

野鳥案内板

亀田記念公園 富岸町

市民の憩いの場となっている亀田記念公園は、多くの自然林に囲まれ野鳥の宝庫でもあります。案内板には、カラー印刷された12種類の野鳥を紹介しており、鳥の特徴や鳴き声、観察時期などを記しています。園内には大、小あわせて5基案内板を設置しています。



まちかどぶらり

表紙のことば

しんた21のトレーニングルームで、足を鍛えるマシンを使い、仲良く汗を流す木内伸寿さん(31)と明美さん(30)ご夫婦(富士町)。

トレーニングは、この日で2回目。通う動機は、二人ともふだん運動していないから。伸寿さんは「週に2、3回は、一緒に来ようと思っただけ。新しくきれいな施設なので、楽しく長く通えそうです」と話していました。

ひとの動き

- 人口 57,207人 (前月比 +88)
 - 世帯 20,802人 (前月比 +72)
- 平成6年3月末日現在

発行
登別市役所
総務部総務課広報係
☎0143851130
〒059
北海道登別市中央町6-11

お米情報……①

- 遅れぎみだった輸入米は、3月中旬から順調に入荷しています。
 - 当分の間、輸入米7割、国産米3割の供給が続きます。
 - 「買いだめ」をしないで、輸入米と国産米を合わせた消費をお願いします。(情報提供：北海道食糧事務所・胆振支庁)
- ▷問い合わせ 商工労政課 (☎2171)



5月から、第2土・日曜日は「リフレッシュデイ」

「リフレッシュデイ」は、市は「リフレッシュデイ」国際家族年にちなんで、室蘭・登別・伊達の3市長が提唱しました。

月に一度、家族そろってリフレッシュし、ゆとりや豊かさの原点「家族」の在り方を見つめ直そうというものです。

この日は家族と一緒に過ごすリフレッシュしませんか。

企業や団体のみならず、この日は家族と一緒に過ごすリフレッシュしませんか。

▽問い合わせ 秘書室 (☎1030)

花いっぱい運動

花の苗をプレゼント

登別市市民憲章推進協議会は、まちを花できれいにしようとしている町内会や各種団体に花の苗を無料で配布します。本年度は1団体に120株、30団体を予定しています。

▽日時 5月25日(水)午前10時から正午まで(雨天決行)

▽場所 市民会館裏駐車場

▽申し込み方法 5月16日(月)までに企画調整室へ付けの用紙に必要事項を記入して申し込みください(先着順)

▽問い合わせ 企画調整室 (☎1122)

